

# 駅

## 上野

全き明るさなどあろう筈もなく  
全き暗闇などあろう筈もなく  
流れる旅人達のざわめきの中  
僕は改札口の近くで頬づえをついている

優しい哀しみと優しい微笑み  
生活、そして空気  
全てのかすかな感情の小さな粒が浮かぶ中  
僕はふとマズルカを奏く

切符に目を落とす人、その一瞬  
周囲の全てがその視線に足を止め  
しばらくして再び流れ始める  
何事もなかったかのように、さり気なく

存在のない映像に我を忘れ  
僕の傍を通り過ぎてゆく人々の  
時間を失った表情に温もりを感じ  
高い天井を見上げて深く息を吸う

(1984.11.11)